

JA三重厚生連は、医療・保健・福祉活動を通じて、組合員と地域住民の皆さまが、安心して健やかに暮らせる地域づくりに貢献していきます。

# 厚生連だより

Letter of JA Mie Koseiren

Vol. 90

2023. 1

【石垣池公園】公園名でもある石垣池の周囲の遊歩道は桜の満開時にはピンクのトンネルができ、池の中心部の島には野鳥用の擬木が設置されており、池に飛来する野鳥やカモの絶好の観察場所です。伊勢鉄道玉垣駅から徒歩7分。



## もくじ

新年のごあいさつ .....	2
松阪中央総合病院における、ロボット支援手術導入後の経過と今後の展望 .....	3
ようこそ南島メディカルセンターへ .....	4
いなべ訪問看護ステーションのぞみ別館2階へ移転いたしました／ 外国人技能実習生の受け入れを開始しました .....	5
園（演）芸会開催 2022／ 人間ドック健診施設機能評価 2022年度「優秀賞」を受賞.....	6
抗がん剤曝露防止の取り組み ～より安全な労働環境に向けて「CSTD」の導入～ .....	7
当院の減塩食紹介 .....	8

CHECK!



JA三重厚生連の  
取り組みを紹介!

# 新年のごあいさつ



経営管理委員会会長

谷口 俊二

明けましておめでとうございます。皆様におかれましては健やかな年をお迎えのことと存じ、心よりお慶び申し上げます。平素は厚生事業に深いご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

ロシアのウクライナ侵攻や急激な円安により、食料の多くを輸入に頼るわが国において物価が高騰し、社会経済や国民生活に大きな影響を与えています。また、生産資材や飼料、燃料等の価格高騰は、農業生産の現場に大きな影響が出ており、持続可能な農業生産や食料の安定供給等、食料安全保障の確立が喫緊の課題となっています。

J Aグループ三重では、自己改革実践サイクルの構築・定着に取り組んでおり、これまで以上に多様な組合員の声に応え、今後も「J Aはこれからも、地域の農業とくらしに無くてはならない組織」であり続けるため、自己改革工程表等の取り組みを継続・深化させ、更なる成果を示してまいります。

厚生事業においては、引き続き新型コロナウイルス感染症に対応するため、通常診療に加え、発熱外来の設置、感染患者の入院受入れ、ワクチン接種を行ってまいりました。今後は、感染症法改正を見据え、公的医療機関の使命を全うするため、新型コロナウイルスをはじめとする新興感染症の治療に積極的に取り組んでまいります。

本会は、J Aグループの一員として、組合員及び地域住民の皆様が住み慣れた地域で安心して健やかに暮らせるよう、選ばれる病院づくりを目指し、役職員一丸となって邁進する所存でございます。今後ともなお一層のご支援とご協力をお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、年頭の挨拶といたします。



代表理事理事長

庄山 隆裕

新年明けましておめでとうございます。皆様には健やかに新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。また、平素は本会事業に対し、温かいご支援を賜りますこと厚く御礼申し上げます。

新型コロナ感染症への対応も3年が過ぎようとしています。昨年は第7波オミクロン株が日本を席卷しました。重症化はしないまでも感染力が強く、発熱外来には沢山の患者が受診し、県内の自宅療養者は3万人を超えました。職員にも罹患者・濃厚接触者が多数発生し、各病院では勤務・業務を支えるための調整に苦労されたと思います。そのような状況の中で、職員の皆さんは通常の業務に加え、入院の受入れ、発熱外来、ワクチン接種、また人的支援要請にも応えてくれました。そうした職員一人ひとりの頑張りによって、地域医療が守られましたこと、改めてお礼申し上げます。

一方、昨年は3年ぶりに行動制限のない夏になり、行楽地は若い人たちで賑わいました。ニューノーマルも定着し、社会全体がウィズ／アフターコロナに向かって動き出したように感じます。猛威を振るったコロナも、ワクチン接種や治療薬の開発によって、いずれその脅威はなくなります。私たちも、コロナ後の時代へと踏み出していかなくてはなりません。

これからのことですが、厚生連が直面する最大の課題は「コロナ禍の経営悪化からの回復」です。コロナによって、病院経営は深刻なダメージを負いました。かかり控えとなった受診動向は、新しい生活様式やオンライン診療なども普及し、全てがコロナ以前の状態には戻らないと思います。加えて、ウクライナ侵攻による世界的な政情不安、異常な円安、原油等の急騰などによって、医療機器、医療材料、食材費は相当値上がりしました。特に、電気料金の値上げは、経営回復を大きく阻んでいます。本会にとって、今年は試練の年になりそうです。その他、医師の働き方改革への対応、医師・看護師の負担軽減、電子カルテの更新やサイバーセキュリティ対策を含めた医療DXへの対応など、取組まなくてはならない課題は山積しています。

嘆いてばかりいられません。2023年は”卯（ウサギ）跳ねる”の年。歴史的には、新しい時代の幕開けとなったことも多いと聞きます。明るい未来を願い、共に頑張ることを誓い、新年のご挨拶とさせていただきます。

松阪中央総合病院における、ロボット支援手術導入後の経過と今後の展望

松阪中央総合病院 副院長 雄谷 剛士

令和3年8月にダビンチサージカルシステム（図1）が松阪中央総合病院に導入され、同年11月より泌尿器科領域においてロボット支援手術の最も恩恵が得られると言われている、前立腺がんに対する前立腺全摘除術を開始いたしました。その結果、順調に症例を重ねていくことができ、令和4年11月までに34名の患者さんにロボット支援下前立腺全摘除術を施すことが出来ました。また、治療適応の拡大として、

小径腎がんに対し本年4月から同システムを用いたロボット支援下腎部分切除術も開始し、現在までに11例に施行しております。手術成績につきましては学会など別の機会に報告させて頂きたいと考えておりますが、大きな合併症はなく、良好な手術成績であるものと自負しております。

今回導入したDa Vinci Xiは手術の助けをするロボットです。腹腔鏡下に、体内に挿入した1本のスコープと3本の操作用デバイスを、一人の術者が操作（図2）することにより、これまで

に実現できなかったレベルで精緻な手術を行うことが可能となりました。その操作用コンソールに座ると広がる鮮明な3D画像は、これまでの通常モニターと比較すると隔世の感があります。鮮明な画像の下で人の操作をダビンチサージカルシステムが補正することにより精密な手術を行う結果、出血量を抑え、術後の疼痛を軽減し、機能温存の向上や合併症リスクが大幅に回避できるようになりました。

今後も低侵襲性治療を通じて、より多くの患者さんの早期回復に寄与できるように努めたいと考えております。そのため多職種で形成したロボット手術チーム（図3・4）は協力し、日々業務の見直しと改善を継続しています。また、当院においてはロボット支援手術の泌尿器科分野以外への適応拡大に向けて準備をすすめており、まず現在外科において大腸がんのロボット支援手術の実施を進めておりますので、近く良いお知らせを提供することをお約束いたします。



図1



図3



図2



図4

## よつごそ南島メディカルセンターへ

当センターでは、11月よりインドネシア人2名の技能実習生を介護職員として受け入れました。初めての技能実習生受け入れということもあり、きちんと指導ができるのか、コミュニケーションはとれるのかなど不安がいっぱいでした。なかでも、最も苦心したのが住居面です。当センターがある南伊勢町、とくに南島地区にはアパートやマンションは皆無です。そこで南伊勢町空き家再生プロジェクトにサポートしていただき、空き家バンクに登録のあった木造2階建ての古民家を住居として利用することとしました。わたしたちはこの古民家を少しでも気に入ってもらえるように、自分たちでフロアリングの張り替えをしたり、小物などを持ち寄り玄関など可愛く飾りつけをして出迎える準備をしました。

いよいよ入居の日がきました。自分たちが住む家を見た彼女たちは涙を流して喜んでくれました。その姿を見てわたしたちは安堵するとともに、これまでの苦労が報われた瞬間でした。入居するにあたり、地元住民の方に早く受け入れてもらえるように、事前説明会を行ったり、回覧板を作成しインドネシアの生活習慣や文化について理解を深めていただきました。入居日には自治会役員の方々の協力を得て近所への挨拶回りも行いました。さっそく地元神社の餅まきにお誘いいただき大量の餅を拾うことができました。二人には、この綺麗な海と山に囲まれた南伊勢町に馴染んでもらえそうです。一方、センター内では、病棟スタッフで飾り付けなどを作って歓迎会を行いました。ここでも、純粋な実習生は感激の涙を流して喜んでくれました。その姿をみたスタッフたちの涙腺も緩み、涙、涙の歓迎会となりました。彼女たちが勤務して1か月が経ちました。老健入所者の方とも上手くコミュニケーションがとれています。とても丁寧な接し方で、私たちにとっても良い刺激となっています。



南島メディカルセンター  
看護師主任 有末裕子

いなべ訪問看護ステーションのぞみ  
別館2階へ移転いたしました  
三重北医療センターいなべ総合病院  
ステーション長 認知症看護認定看護師 川杉 洋子

いなべ訪問看護ステーションのぞみは、三重北医療センターいなべ総合病院に併設されております。

そんな中令和4年6月から敷地内薬局OPENに伴い、別館(敷地内薬局の2階)に事務所を移転いたしました。また11月からはJA三重厚生連の全訪問看護ステーションに電子カルテが導入され、利用者の情報の共有化を行っています。

いなべ訪問看護ステーションのぞみでは、スタッフ全員で看護の質向上を図る為、毎週水曜日に神経内科家田医師による認知症や神経難病の講義、カンファレンスを行っています。ターミナルケアや慢性疾患だけでなく認知症看護にも力を入れて取り組んでおります。

今後も新しい事務所で訪問看護を盛り上げていきたいと思っております。



外国人技能実習生の受け入れを開始しました  
三重北医療センター菟野厚生病院  
地域包括ケア病棟部長 位田 美穂

当院では、外国人技能実習制度で看護補助職種の実習生の受け入れを開始しました。新型コロナウイルス感染症による出入国規制等の影響で、約2年間延期となっていました。10月1日インドネシアから6名の実習生が仲間入りしました。キラキラした目で、「日本語と介護を学びたい」という強い思いを、私たちに伝えてくれたことを、今も鮮明に覚えています。

病院職員は、実習生を迎えるために、インドネシアの文化や食生活を学び、アパートや生活環境を整える準備を行いました。また、配属病棟では、職員全員の自己紹介ポスターを作成し、物品や患者さんの名前など、漢字で書かれているもの全てにふりがなを記入しました。

介護技術については、根拠をしっかりと伝えながら、統一した技術や知識を指導できるよう準備を整え、実習生が技術習得できるまで、何度も繰り返し練習しています。入職し、2ヶ月経過後、介護福祉士の指示のもとで、ベッドメイキングや患者移送、食事の配膳ができるようになりました。

また、配属当初は、日本語が不安で、自分から患者さんに話しかけることができずでしたが、今では、積極的に患者さんと会話し、「新しい言葉を

学んだ」と、嬉しそうに伝えてくれます。時には、患者さんから言葉を教えていただくこともあります。一方言が難しい「ようで、職員は標準語で話すように努力しています。

私自身も、実習生達からインドネシア語を教えてもらい、「ミニニケーションを深めています。言葉の意味の違いに驚かされています。例えば、インドネシア語の Terima kasih(テリマカシ)は、日本語で「ありがとう」を意味します。Terima「受け取る」、Kasih「愛」という意味で、直訳すると「愛を受け取りました」という表現となります。すぐく素敵な表現だと思えました。インドネシア語を通じ、改めて「ありがとう」の意味を考えることができました。言葉の壁や文化の違いはありますが、お互いを知り、尊重し、歩み寄ることが重要だと感じています。



園(演)芸会開催

2022

鈴鹿厚生病院 合同レク委員会

11月8日9時30分～15時30分、園芸会を行いパンジーの花を植えました。

当院では、平成20年春より地域医療センター前に花壇を設けて患者さんと一緒に、近隣の保育園児達を交え花を植えて来ました。

しかし、コロナ禍により様々な行事が中止を余儀なくされました。

今回はコロナ禍で疲弊した心に「エール」をテーマに掲げ実行させて頂きました。行事中止を受けて、3年近く当院行事への参加がなかった保育園の園長も快く参加を引き受けて下さり、楽しい思い出のお礼にと、マスクを着用した状態で園児が歌を披露してくれました。

各部署単位で患者さんに花を植えて頂いた後、午前ブイケア利用者のみの観客で「キツネダンス」・職員によるバンド演奏とエイサー踊り、午後も花を植えた後、東3病棟のみを観客として、演奏とエイサー踊りを披露して頂きました。合同レク委員以外も、サービス向上推進委員会のスタッフ・当日の日勤業務のスタッフ等、沢山の人の関わりにより、感染対策が厳守されトラブルもなく終了出来ました。



人間ドック健診施設機能評価

2022年度「優秀賞」を受賞

鈴鹿中央総合病院 健康管理センター「オリーブ」 保健師 山崎 緑

このたび令和3年10月に機能評価3回目(Ver4)の更新認定を受け、第2領域 保健指導体制構築に向けた取り組みについて優秀賞をいただきました。前回の機能評価で「保健指導の関与が弱い」と評価を受け、保健師が保健指導精密検査を受けるよう勧めたり、健診データを基に食生活や運動習慣などの生活習慣の改善につなげられる働きかけ)を行う時間帯を確保できるよう健診スタッフ全体で業務改善に取り掛かりました。

人間ドックの総合診察後に人間ドックアドバイザーの資格を取得した保健師4名が保健指導を行っています。前回の実施率は71%でしたが、現在62.3%と大幅に増加、保健師5名が在籍していた時期は86.7%まで上昇することができました。

引き続き実施率100%を目指し、受診者さんが満足していただける保健指導を行ってまいります。

これからも、健康の保持増進のため健診・保健指導の質の向上に努めてまいります。



抗がん剤曝露防止の取り組み ～より安全な労働環境に向けて「CSTD」の導入～

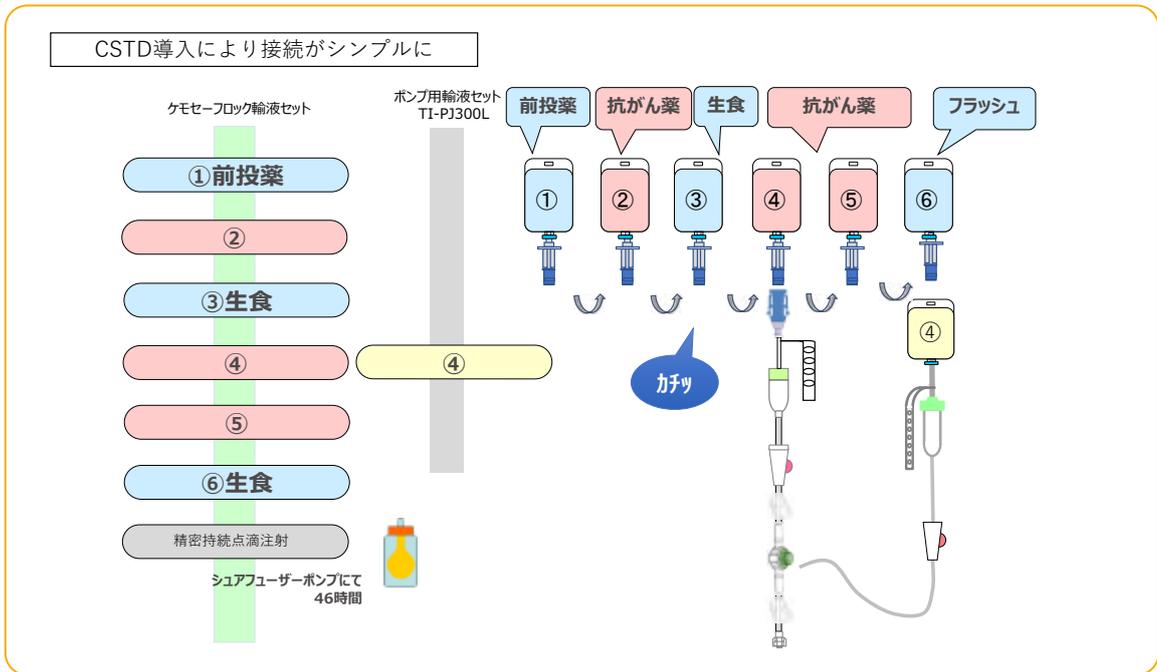
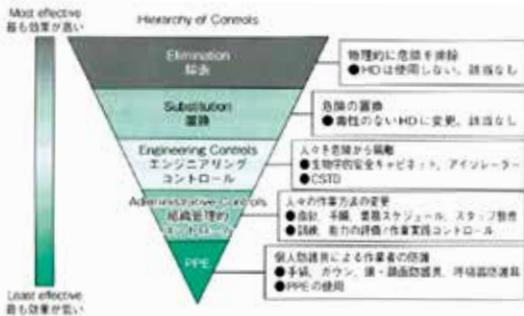
三重北医療センター菟野厚生病院 がん化学療法認定看護師 安松直美

抗がん剤は、患者さんに適切に投与する事での効果が高い反面、取り扱う医療従事者の健康に影響を及ぼす薬剤 (Hazardous Drugs: HD) であり、注意深い取り扱いを要します。抗がん剤の取り扱いについては、当院でもマニュアルの整備や、職員への教育等、曝露予防対策に努めてきました。私は、平成30年にがん化学療法認定看護師の資格取得を機に、より安全な労働環境に向けて、「がん薬物療法における職業性曝露対策ガイドライン」のヒエラルキーコントロールを基に職員への指導を実施、「CSTD」(閉鎖式薬物移送システム) 導入に取り組みました。

曝露対策については、実施する措置のうち、「除去」が最も効果が高く、以下「PPE」に向かって効果が低くなります。「PPE」については、ガイドラインに沿って着用できるように浸透しましたが、投与管理については、不十分な点もあり組織的な管理が必要と考えました。そこで、令和3年秋より、曝露対策への取り組みを強化、より安全な労働環境に向けての整備を始めました。まず、「エンジニアリングコントロール」であるCSTDの導入を検討することとなり、「組織管理的コントロール」や「PPE」についても平行して進めました。CSTDについては、抗がん剤曝露について、院内で検討する機会を設けました。検討の結果、「スタッフの健康を守る、安全な労働環境を提供する為」と、導入する運びとなりました。

導入開始に向けては、薬剤部と共に4社ほどのSTDを検討、使いやすいなどから、1社に決定しました。新型コロナウイルス感染症による他県への移動制限等の影響もあり、周知するための、勉強会開催には工夫を要しましたが、実物を送っていただき、リモート研修を重ねる等、抗がん剤に携わる部署のスタッフも参加し協議することができました。導入後の成果として、CSTDを用いずに投与するには投与ルートが複雑になりますが、CSTDを用いることで、手順が簡素化され、安全に抗がん剤投与が出来る様になりました。

膀胱注入の曝露対策や、コスト面での課題が残りますが、認定看護師教育課程で教わった「曝露対策は、認定看護師として『やりたい事』ではない事、ではないかもしれないが、『やらなくてはならない事』である」という言葉を胸に、今後もスタッフの安心・安全な労働環境の為に活動していきたいと思っております。



当院の減塩食紹介

大台厚生病院 管理栄養士主任 川合 美幸

減塩食を継続するためには、塩

分を含む調味料を控え素材の味を生かした調理をする、その味に慣れることが重要です。そのため

に香り・酸味・風味・辛味のあるもの（生姜・しそ・酢・レモン・柚子・

出汁・ゴマ油・オリーブ油・山椒・カレー粉など）を利用するのがお

勧めです。また、「噛む」ことも満足感に繋がります。当院では野

菜もたっぷり使用し、薄味でも「噛む」ことで満足感を得られる献立としていきます。

（※腎臓疾患等でカリウムや蛋白質を控える必要のある方は医師や管理栄養士に相談しましょう。）

栄養量（1食1人分）

- エネルギー量：590 kcal
- たんぱく質：23g
- 脂質：15g
- 塩分：1.3g



ごはん・・・180g  
鶏肉レモン焼き

【材料】（1人分）

- 鶏胸肉・・・60g
- ★ しょうゆ・・・4g
- ★ 酒・・・2g
- ★ みりん・・・1g
- レモン薄切り・・・1枚（飾り）
- 油・・・3g

作り方

① 鶏胸肉に★を振りかけなじませておく（15分程度）

② フライパンに油をひき①を火が通るまで焼き、火を止める直前にレモンをのせて蓋をして少しおく（レモンの香りがたちます）

中華風炒め

【材料】（1人分）

- キャベツ・・・50g
- もやし・・・30g
- ピーマン・・・10g
- むぎえび・・・10g
- しょうゆ・・・2g
- ゴマ油・・・1g

作り方  
① フライパンにゴマ油を入れ、むぎえびを軽く炒め、残りの野菜を加えてしんなりするまで炒める。  
② 最後にしょうゆを回し入れさっと炒めて完成

ドレッシング和え

【材料】（1人分）

- レタス・・・30g
- きゅうり・・・20g
- たまねぎ・・・5g
- みかん缶詰・・・10g
- ★ 油・・・3g
- ★ 酢・・・2g
- ★ 砂糖・・・0.2g
- ★ 塩・・・0.2g
- ★ こしょう・・・少々

作り方

① ★を全て混ぜてドレッシングを作っておく  
② レタスは食べやすい大きさにちぎる。きゅうりは輪切りにする。たまねぎは薄切りにして水にさらしておく。  
③ ②にドレッシングを加え、みかん缶を飾って完成。

JA三重厚生連

人に 地域に やさしい看護

薬剤師

看護師

介護福祉士

看護補助員

募集



厚生連だより Vol.90

発行／三重県津市栄町1丁目960番地

三重県厚生農業協同組合連合会

TEL 059-229-9191 FAX 059-224-4354  
http://www.miekosei.or.jp/ E-mail:info@miekosei.or.jp



自然保護のため、石油系成分の少ない植物油性インキを使用しています。